

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却について

固定資産の減価償却については、法人税法の規定による定率法によっている。

(2) 引当金の計上基準について

事務局職員の退職給付に備えるため、退職金規程に基づく要支給額により計上している。

(3) 消費税等の処理について

税込方式によっている。

2 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位 円)

科 目	取得価額	減価償却費	減価償却累計額	当期末残高	備考
応接セット (H2. 3)	700,000	0	699,999	1	
シュレッダ (H17. 6)	168,000	4	167,999	1	
プロジェクト (H19. 11)	102,900	0	102,899	1	
デスクトップ (H26. 3)	179,800	54,689	179,799	1	
デスクトップ (H28. 10)	181,224	181,224	181,224	0	※
事務デスクセット (H28. 11)	429,840	17,910	17,910	411,930	
会議室セット (H28. 12)	1,919,916	79,997	79,997	1,839,919	
ハイパーテーション (H28. 12)	390,388	32,532	32,532	357,856	
カウンタ (H28. 12)	113,832	113,832	113,832	0	※
ドア交換 (H28. 12)	162,000	162,000	162,000	0	※
合 計	4,347,900	642,188	1,738,191	2,609,709	

※ 少額減価償却資産の特例により全額経費とし一括償却

3 投資その他の資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位 円)

科 目	取得価額	減価償却費	減価償却累計額	当期末残高	備考
長期前払費用	648,000	64,800	64,800	583,200	保証金敷引
合 計	648,000	64,800	64,800	583,200	

4 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

(単位 円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
特定預金資産 ※	2,001,913	27	2,001,940	0
40周年記念事業資金	400,072	300,004	0	700,076
事務所維持費用準備資金	0	6,000,000	0	6,000,000
退職給与引当資産	2,922,550	100,040	0	3,022,590
合 計	5,324,535	6,400,071	2,001,940	9,722,666

※ 事務所移転に備えた特定預金資産は運転資金預金へ

5 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

(単位 円)

科 目	当期末残高	(指定正味財産からの充 当額)	(一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対 する額)
特定資産				
40周年記念事業資金	700,076	(0)	(700,076)	—
事務所維持費用準備資金	6,000,000	(6,000,000)	(0)	—
退職給与引当資産	3,022,590	(0)	(3,022,590)	(3,022,590)
合 計	9,722,666	(6,000,000)	(3,722,666)	(3,022,590)

付属明細書

1 基本財産及び特定資産の明細

注記3に記載しているため省略する。

2 引当金の明細

(単位 円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
退職給与引当資産	2,922,550	100,040	0	3,022,590